

＜先週の説教から＞

『詩編 55㉔ 一 氣 が 狂 い そ う で す 』

武田 真 治 牧 師

詩編 55：1～17 マタイ福音書 26：47～54

毎月、最後の日曜日には『詩編』を一つづつ読み進めています。今日の詩編 55 篇は量的にも内容的にも 2 回に分けることが必要だと思っています。この詩編は悲痛な祈りの言葉から始まっています。「神よ、わたしの祈りに耳を向けてください。嘆き求めるわたしから隠れないでください。わたしは悩みの中にあってうろたえています。わたしは不安です」と。このような“叫び”の背後にある厳しい状況とは何なのでしょうか？ この後の言葉の中には「敵が声をあげ、神に逆らう者が迫ります」「都に不法と争いのあることが。町中には滅びがあります。広場からは搾取と詐欺が去りません」などがありますが一番の問題は 13 節以下の言葉でしょう。即ち「わたしを嘲る者が敵であれば、それも耐えましょう。だが、それはお前なのだ。わたしと同じ人間、わたしの友、知り合った仲。楽しく、親しく交わり、神殿の群衆の中を共に行き来したものだ」です。つまり、今迄、友として付き合い合ってきた存在が裏切って“敵”に寝返ってしまったのでした。故に「悩みの中にあってうろたえ」「胸の中で心はもたえ、わたしは死の恐怖に襲われています」と、なぜなら、その元の友人はこの祈り手のやり方も弱点もすべて知り尽くしており、そんな人物が敵に回っているからです。

どうでしょうか、この祈り人にとって、何よりショックなことは、その人が裏切るとは全く思っていなかったことでした。このことで、もはや他の友人や味方も信用できない、人間不信、疑心暗鬼に陥ってしまったのです。この詩編の最初の“叫び”を前の口語訳聖書では「私は悩みによって弱りはて、気が狂いそうです」と訳していました。この“気が狂う”という言葉は原文では（アヒマー）で「掻き乱される、統制が効かなくなる」ことを意味します。自分で自分がもはやコントロールできない状態＝自分でもわけが分からなくなっている状態になってしまったということでしょう。

しかし、その様な状態の中で祈り人が求めていることが、この後の「わたしは言います。『鳩の翼がわたしにあれば、飛び去って、宿を求め、はるかに遠く逃れて荒れ野で夜を過ごすことができるのに。』」なのです。私は、ここにこの祈り人の“信仰”を感じます。「荒れ野」とは神さまと 1 対 1 で向き合える場所です。今のこの混沌とする日常から離れて、ひと時でいいから静まって神様を感じながら本来の自分を取り戻したいと。このような“時”こそ、私たちにとっての《密室の祈りの時》であり、この《礼拝の時》ではないでしょうか。目まぐるしい日常で正気を保つこと自体が難しくなっている現代において、独り静まる時を持つことは自分の心の安定のためにも必要です。その時は自分で造り出すものです！

【今週の集会】

*聖書研究・祈拝会 I. 10 月 8 日（水）20：00
II. 10 月 9 日（木）10：30

聖書研究：ローマの信徒への手紙

祈拝主題：神学校日を覚えて

担当者：（水）SN （木）MH

祈りに覚える人：AS さん AT さん

【教勢報告】

主日礼拝 男 18 女 48 計 66
祈拝会 I. 男 4 女 2 計 6 II. 男 1 女 7 計 8
日曜学校 幼稚科 2 小中科 9 計 11

【次週主日礼拝】 10 月 12 日（日）

聖書：マラキ書 3：1
ルカによる福音書 7：24～30

説教：「ルカ 57 - 神の国で最も小さい者」
武田 真治 牧師

讃美歌：13(1)、32、98、452、505、28(1)

【次週当番表】

司式：KY 長老 奏楽：NH 礼拝：SM 長老

献金：HM HH 受付：SM HH

会堂準備：IY OY KS NY

森本博子

看板：II 週報：KY お花：IK

【次週集会予定】

礼拝前：・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後：・お茶の会 ・牧師と語る会 ・聖歌隊練習
・壮年/婦人/ダビデ会

66 - 40

週 報

2025 年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2025 年 10 月 5 日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧 師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見 2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549